

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度		科目名	日本舞踊Ⅳ	
科目基礎情報							
開設学科	声優・演劇科		コース名	俳優コース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	40時間
単位数	1単位				授業形態	実習	
教科書/教材	私家版　各作品の解説、歌詞本						
担当教員情報							
担当教員	花柳 寿芽月			実務経験の有無・職種	有　舞踊家		
学習目的							
1 年次で学び習得した日本舞踊を踊るための身体作りや基礎的動作を更に発展させ、老若男女、人間の様々な性、職業、時として人間以外の動物や植物、妖精などにまで範囲を広げてその特徴を表現する、役作りと呼ばれるものに挑戦する。また、歩き方、構え方なども再確認し乍ら歌舞伎を源流とする舞踊作品の一部を習得する。更に三味線音楽で“語り物”と”唄い物”に二分されるジャンルの相違を理解し古典芸能全般への知識の扉を開くことを目的とする。							
到達目標							
江戸時代に開花した庶民の芸能歌舞伎の一端を実体験することにより当時の文化の有様を推察しながら日本人の感性の鋭さの理解を共有する。そして、国際社会に於いて自国の伝統文化を説明することが出来、更なる日本伝統文化の継承と発展に帰依する真の国際人への成長をめざす。							
教育方法等							
授業概要	1 年次に学んだ基礎的動作の学習テキスト「踊り解体新書」シリーズの上級編「踊り解体新書Ⅲ」を用いて、琴や尺八をとり入れた現代邦楽の作品にチャレンジする。音楽を聴いた時の自己のイメージから連想された舞踊表現をテーマに併せて呼吸の表現－息の詰め、開き－を重視した作品を習得する。前期には歌舞伎舞踊的 2 作品から役柄の特徴の踊り分けを学び、後期にはリズムカルな作品で手踊りと、晒（さらし）と呼ばれる小道具の扱いを学ぶ。最終作品として創作舞踊「涛-とう-」（花柳園喜輔・振付）をデュエットで習得する。						
注意点	日本の伝統芸能の多くは先ず稽古と呼ばれる、形式や型等外観的要素を重んじた練習形態である。その上で精神性を注入し、人間性の濃い表現へと移行することが大切と思い創作にチェレンジする。コピーでないひとり1人の表現を尊重し、各々の個性を生かした表現の実現を目指す。授業時数の 4 分 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	実技テスト	90%	課題舞踊を試験し、技術、情感等総合的に評価				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度により評価				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	「長唄 越後獅子」より(1)			歌舞伎舞踊的作品のリズムカルな作品からリズムを感じる			
2 回	「長唄 越後獅子」より(2)			手踊りの表現、小道具の扱いを知る			
3 回	「長唄 越後獅子」より(3)			手踊りの表現、小道具の扱いの研究			
4 回	「長唄 越後獅子」より(4)			音楽を感じながら身体表現に活かす			
5 回	「長唄 越後獅子」より(5)			リズムに乗って踊る			
6 回	「長唄 越後獅子」より(6)			音楽に合わせて役柄に合った表現で踊る			
7 回	「創作　涛-とう-」(1)			歌舞伎舞踊的作品との違いを感じる			
8 回	「創作　涛-とう-」(2)			作品に込める精神性を探る			
9 回	「創作　涛-とう-」(3)			個性を生かした表現について考える			
1 0 回	「創作　涛-とう-」(4)			デュエット作品の踊り方を考える			
1 1 回	「創作　涛-とう-」(5)			デュエット作品における個性を尊重した表現を探る			
1 2 回	「創作　涛-とう-」(6)			舞踊表現についての発見を踏まえて踊る			
1 3 回	まとめ　今までの復習(1)			歌舞伎舞踊的作品での役柄の踊り分けについて			
1 4 回	まとめ　今までの復習(2)			創作舞踊作品と歌舞伎舞踊的作品の違いを考える			
1 5 回	総まとめ			「長唄 越後獅子」「創作 涛-とう-」舞踊発表			